

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：社会人類学調査法 ILAS Seminar :Social Anthropological Research			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 岩谷 彩子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	木2	教室	共北3B			使用言語	日本語
キーワード	記憶 / ジェノサイド / ホロコースト / パレスチナ / 紛争						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
[授業の概要・目的]							
ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナにおける人道危機、と近年世界情勢は緊迫化している。その背景には先進国の近現代史が影を落としており、現代を生きる我々も無関係ではない。本講義では、パレスチナの人道危機に大きく関わるホロコーストの記憶と、それを特権化しながら国家を形成してきたイスラエルの国家観、1990年代以降のメモリアル・スタディーズを批判的に検証する。具体的には、ジェノサイドとホロコーストをめぐる議論や映像作品の紹介、イスラエルに生まれアメリカで教鞭をとる歴史学者、オメル・バルトフの『ホロコーストとジェノサイドーガリツィアの記憶からパレスチナの語りへ』を講読することで上記の課題について考察する。 「ホロコーストの記憶をパレスチナの痛みとともに語ることはできないのか」ー1948年のイスラエル建国に端を発し現在まで続くパレスチナの危機的な状況を、そして特権化されてきたホロコーストの記憶を、現代に生きる私たちはどのように考えればよいのか、記憶のポリティクスを超え和解の糸口を探してみたい。							
[到達目標]							
・加害者と被害者、傷みを抱えた人々同士がいかに共感の場を見出していけるのか、戦争のメカニズムとそれを乗り越える方途について考察できるようになる。 ・国家の記憶や戦争の記憶のようにマクロな規模で形づけられる記憶と、個人の経験に根ざしたミクロな記憶、異なるスケールの記憶の実践を関連づけて考察できるようになる。 ・ジェノサイドとは何か、説明ができるようになる。							
[授業計画と内容]							
授業では、ホロコーストをめぐる議論や映像作品を紹介し、第5回以降『ホロコーストとジェノサイドーガリツィアの記憶からパレスチナの語りへ』（オメル・バルトフ）を講読する。購読では、受講生は各自が担当する章の内容と論点、その章を読んで考察したことをレジュメにまとめて発表し、全員でディスカッションを行う。							
第1回	講義と講師の紹介						
第2回	メモリアル・スタディーズと想起の文化						
第3回	ホロコースト / ジェノサイドの表象不可能性						
第4回	ホロコーストの記憶とパレスチナ問題						
第5回	歴史上の唯一無二性と統合された歴史（第1章）						
第6回	ジェノサイドの場としての東ヨーロッパ（第2章）						
第7回	地域からジェノサイドを再構成する（第3章）						
第8回	歴史文書としての証言（第4章）						
第9回	法廷のなかのホロコースト（第5章）						
第10回	忘却の道具としての記憶法（第6章）						
				ILASセミナー：社会人類学調査法(2)へ続く↓↓↓			

ILASセミナー：社会人類学調査法(2)

- 第11回 イスラエル＝パレスチナにおける帰還と追放（第7章）
- 第12回 私がたどったアウシュヴィツへの捻れた道、そして帰路（第8章）
- 第13回 過去を語って未来を築く（第9章）
- 第14回 まとめ
- 第15回 フィードバック

[履修要件]

他の人類学に関する講義を同時に受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業への出席が前提となる。講義内での受講生の報告（60％）、ディスカッションへの参加状況（40％）で評価する。

[教科書]

オメル・バルトフ『ホロコーストとジェノサイドーガリツィアの記憶からパレスチナの語りへ』（岩波書店、2024年）ISBN:978-4-00-061671-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・講読担当者以外も、受講生は講読箇所をあらかじめ読んで授業に臨むこと。
- ・講読担当者は、文献に登場する概念や用語の背景も調べたうえで講読担当章の内容を要約し、自分の意見もまとめて発表すること。
- ・受講生は授業で提起された問いを、関連文献の講読によって深めることが期待される。

[その他（オフィスアワー等）]

- ・総合人間学部の学生は、別途選抜を行うので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ第1回目の授業に出席すること。
- ・授業中、疑問点などは積極的に質問すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]